

年間展示予定

EXHIBITION SCHEDULE

特別企画展 6F 特別展示室 常設展示観覧券でご覧になれます

4月19日(金)→6月3日(月)

おおさか街あるき

—キタ・ミナミ—

おおさかを代表する繁華街、キタとミナミ。その街の姿は、歴史が隣り合い、積み重なることで生まれたものです。街あるきは、そんな過去といまを繋いでみることであり、そこにはいつも新たな出会いと発見があります。館蔵資料を通して、それぞれの街の魅力に迫ります。(阿部)



赤松麟作画「大阪三十六景」より「戎橋」

1月11日(土)→3月3日(月)

発掘! 大名たちの蔵屋敷

—「天下の台所」に集う米・物・人—

江戸時代、各地の藩は大坂にこぞって蔵屋敷を設けました。その数最大時で130軒余り。これらは水運の良い中之島・堂島に集中し、大坂商人と共に年貢米や特産物売りさばきました。藩財政の中で重要な役割を果たすと同時に、文化交流の場となった蔵屋敷を、発掘資料、絵画資料、古文書等から紹介します。(杉本)



広島藩蔵屋敷跡で見つかった船入

特別展 6F 特別展示室 特別展観覧券が必要です

7月5日(金)→8月26日(月)

難波宮発掘開始70周年記念 大化改新の地、難波宮

—古代日本のターニングポイント—

令和6年(2024)は、難波宮跡の第1次発掘調査がはじまって70年という節目の年。これを記念して、長年にわたる難波宮の調査成果を大々的に紹介します。そして、誰もが知る古代日本の大きな改革「大化改新」と、その舞台となった難波宮の関係を、周辺資料や伝承もまじえて、分かりやすく様々な角度からひも解いていきます。(安岡)



飛鳥時代の難波宮の姿

10月5日(土)→12月2日(月)

川瀬巴水 旅と郷愁の風景

木版画家・川瀬巴水(1883-1957)。近代化により街や風景が変貌していく大正から昭和にかけて、巴水は全国を旅し、庶民の生活が息づく風景を描きました。版元の渡邊庄三郎らと協業し、新時代の木版画「新版画」を牽引する存在として人気を博します。本展では、「旅情詩人」とも呼ばれた川瀬巴水の画家としての生涯を、代表的な作品約180点とともに紹介します。(飯田)

特別協力: 渡邊木版美術画舗 / 資料提供: 大田区立郷土博物館 / 企画協力: ステップ・イースト



《芝増上寺》東京二十景一九二五(大正十四)年
渡邊木版美術画舗蔵

特集展示 8F 特集展示室 常設展示観覧券でご覧になれます

3月6日(水)→5月6日(月・祝)

再発見! 秀吉の大坂城

—金箔瓦と家紋瓦—

秀吉の大坂城を象徴する金箔瓦や、武家屋敷の屋根を飾った家紋瓦などの発掘資料を陳列し、豊臣大坂城と城下町の姿を紹介します。(豆谷・岡本)

5月8日(水)→7月8日(月)

—わたしが難波橋のライオン像をつくりました!!— なにわの彫刻家・天岡均一

没後100年記念展

ライオン像などの彫刻をはじめ絵画・陶磁器も手がけ、俳人でもある天岡の稀少な作品を紹介します。(北上)

7月10日(水)→9月2日(月)

新収品お披露目展

皆様からのご寄贈により近年新たに館蔵品となった作品・資料のうち、未公開のものを中心にお披露目します。(谷口)

9月4日(水)→10月28日(月)

新発見! なにわの考古学2024

令和5年(2023)度を主とした大阪市内の発掘調査成果を、出土遺物と写真パネルで紹介いたします。(寺井)

10月30日(水)→12月23日(月)

心齋橋ときもの

—小丸丸260年のあゆみ—

令和6年(2024)に創業260年を迎えた心齋橋の老舗呉服商・小丸丸。そのあゆみを華麗なきものの数々とともに振り返ります。(中野)

12月25日(水)→令和7年2月17日(月)

稲作民俗事始め

—米をつくる技術、米がつくる文化—

大阪府下の資料を中心に展示し、米作りの技術や民具、儀礼などから、稲作にまつわる民俗文化をたどります。(俵)

令和7年 2月19日(水)→4月14日(月)

泉布観

—大阪最古の洋風建築—

明治天皇行幸関係資料や建築資料を通じて現存する大阪最古の洋風建築「泉布観」を紹介します。(阿部)